

## 事業提案書要約

1. 対象国名	マラウイ
2. 事業名	耕畜連携システムによる食料の生産性向上と安定的確保 〈一村一品活動の特産品づくりに向けて〉
3. 事業の背景と必要性	マラウイ南部チョロ県ブンブエ地域では、農民の殆どが主食であるメイズを生産しているが、土壌の疲弊が激しく生産能力が低いとため、大量の化学肥料に依存しなければならない。しかし、貧困状況が深刻な当該地域で、農業投入財を確保することは困難を極め、低迷する食料生産性と成長しない経済の悪循環が続いている。このため、農民が負担する化学肥料の購入を可能な限り抑制し、家畜糞尿などの既存の資源を肥料として有効活用する「低投入型農業」の実践が求められている。
4. 事業の目的	家畜糞尿を活用した土壌改良、収穫残渣物の家畜への飼料投入等、農作物生産と家畜飼育を一体として捉える農業技術「耕畜連携システム」を普及して、農業生産性の向上、自給作物の安定的確保、特産品づくりに貢献する。
5. 対象地域	チョロ県ブンブエ地域
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	「一村一品運動」に参加している小規模農民グループ（約 600 人）および近隣農民
7. 活動及び 期待される成果	<p>【成果 1】家畜糞尿の活用による土壌改良技術を習得し、化学肥料を投入した土壌に比べ、生産コストを考慮した農業生産性が向上する。</p> <p>[活動 1-1] デモンストレーション農場の確保・維持 [活動 1-2] 家畜管理技術指導の実施 [活動 1-3] 土壌改良技術指導の実施</p> <p>【成果 2】生産した食料を通年確保するための貯蔵・加工技術が向上し、伝統的な簡易保存方法に比べて、食物損失が減少する。</p> <p>[活動 2-1] メイズ貯蔵技術の指導 [活動 2-2] 野菜等生鮮農産物の貯蔵・加工技術の指導</p> <p>【成果 3】農業基盤技術、生活改善、衛生・栄養改善等の知識習得機会が提供され、当該知識が向上する。</p> <p>[活動 3-1] 農業基盤技術の提供 [活動 3-2] 女性の能力開発</p>
8. 実施期間	2009 年 6 月 23 日～2012 年 6 月 22 日（3 年）
9. 事業の実施体制	帯広畜産大学が活動主体となり、マラウイ農業食糧保障省、マラウイー村一品事務局と連携協力して、事業を実施する。